

基本的な移動の手順

演習 練習

準備	身体状況をアセスメントし、適切な用具を選択する 安全点検 作業環境の整備 移動経路の環境把握	使用する物品の構造と機能、各名称、操作方法、使用上の注意点を理解する		
車椅子への移乗・移送	患者の足元に、ブレーキを掛け、フットプレートを上げた車椅子を準備する 移乗動作は、端坐位から座位への変換を参照 座りが浅い場合は、患者の後ろに回り、組んだ患者の腕を腋窩から差し入れた手で握る 対象を前傾にして、腰を浮かせながら腰部を後ろへ引き座りを深くする フットプレートを下ろし足を乗せる ひざ掛けをするなど、プライバシーの保護と保温を確認する 衣類など走行時の安全を確認する ブレーキをはずし、にぎり手を持ち静かに押す 走行スピードを患者に確認しながら、安全に移送する <ul style="list-style-type: none"> ・ 患者の足元は看護師には見えにくい ・ 下り坂は蛇行もしくは、後ろ向きに走行する ・ 段差がある場合は、段差の前でいったん止まり、ティッピングレバーをゆっくり踏み込む ・ 小さい段差は後ろ向き走行し超えることもできる ・ エレベーターの乗降では、患者がドアに挟まれるなどの危険がないように十分注意する ・ 方向転換やエレベーターなどで後ろ向きで走行する場合、後方が見えないため不安に対処する ベッドに戻る手順は、車椅子への移乗の逆になる	麻痺などある場合は健側に準備する ベッドに戻る際には、ベッドが健側になる 掛け物や衣類、ライン類がタイヤなどに絡まないよう整える 押し始めの力の方向と大きさ ボディイメージの相違 視線の高さによる認知の相違 傾斜面走行時には不安も感じる 後輪が大きい場合		
ストレッチャーへの移乗（バスタオル）	ベッド側になるストレッチャーの柵をはずし、ベッドの脇に平行に置く ベッドおよびストレッチャーのストッパーを掛ける 移乗先をやや低く高さを調節する 患者の体の下にバスタオルを引く 患者の腕を腹部で組む 看護師は、頭部、患者とストレッチャーをはさんで左右、足元に位置する <ul style="list-style-type: none"> ・ 3人の場合：頭部と左右に位置する ・ 2人の場合：左右に位置し、患者の頭部はバスタオルに乗せて安定させる 患者の肩部と腰臀部のバスタオルを体幹近くまでたぐり寄せる 患者の頭部、下肢は看護師の前腕に乗せて、安定させる	側臥位への体位変換の応用 人員数による配置の工夫 上半身と下半身の2回に分けて移乗する 前腕の筋群への負担：順手<逆手 生じる力量：順手<逆手		

移乗 (バスタオル)	<p>移動する時には声を掛け合い、タイミングを合わせる</p> <p>バスタオルを持ち上げ患者の体を浮かせ、まず、移乗先近く(ベッドの端)に水平移動する</p> <p>次にストレッチャーへ移動する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 送り手の足は前後に開き、移動とともに重心を前方に移動する ・ 人員数に合わせて、上半身と下半身を2度に分けて移乗する <p>柵をして、掛け物を掛ける</p> <p>ベッドへの移乗は逆の手順になる</p>	<p>無理せず、長い距離を移動しない</p> <p>力の方向</p> <p>必要な場合はベッドに上がり作業する</p> <p>プライバシーの保護と保温</p>		
スライダ―	<p>イージースライダーを患者の体の下に敷く</p> <p>余裕があれば、移動側にイージースライダーが残るように敷く</p> <p>イージースライダーの上側をスライドさせるように、患者の体を移乗先方向に押して移動する</p>	<p>ストレッチャーのスライダー機能も同様に使用</p> <p>患者の身体の1/2~2/3がスライダーに乗れば、移動可能</p>		
徒手による移乗	<p>ベッドの足側にストレッチャーの頭側を垂直につける</p> <p>ベッドとストレッチャーのストッパー、高さの調節、患者の準備は上記に同じ</p> <p>背の高い順に、頭頸部・肩甲骨下部、腰・臀部、大腿部・下肢を各自支え、抱え込むように持つ</p> <p>息を合わせて患者を持ち上げる</p> <p>患者の足先から足先方向に進み、L字の軌道でストレッチャーに移動する</p> <p>腰・臀部、大腿部・下肢、頭頸部・肩甲骨下部の順に静かに下ろす</p> <p>柵・掛け物はバスタオルによる移乗を参照</p> <p>ベッドに戻るときは逆の手順</p>			
移送	<p>安楽、安定した体位を保持する</p> <p>柵を拳上し安全を確保する</p> <p>保温およびプライバシーを保護する</p> <p>移送しやすい高さに調整する</p> <p>足元から先行し、安全に移送する</p> <p>傾斜では頭部が低くならないように移送する</p> <p>方向転換は頭部を中心に回転する</p> <p>またはストレッチャー中央を中心に回転する</p>	<p>頭部の移動が大きいほど不快</p>		
担架への移乗・移送	<p>患者の意識状態を確認する</p> <p>患者を抱える係3名、担架を挿入係1名を決める</p> <p>担架を広げ患者の側方に配置する</p> <p>患者を中央にして担架と反対側に、頭部が低くならないように考慮して、看護師3名が配置につく</p> <p>3名の看護師は方膝を立てて準備する</p> <p>身体の下に両手を差し入れ、3名が下から支える</p> <p>声をかけ、同時に患者を持ち上げ、膝の上に乗せる</p>			

担架への移乗・移送	息を合わせて担架に患者を下ろす	頭が低くならないように、腰、下肢、頭部の順に下ろす 上肢が動かない位置		
	患者の肘関節より下方を固定できる位置に安全ベルトをする			
	タオルケットや毛布を掛け保温する			
	4人で移送する: 1人1カ所ずつグリップを持つ			
	3人で移送: 頭部側2人、足元は1人でグリップを持つ			
	2人で移送: 肩負紐を掛けて、頭部側と足側を1人ずつで持つ			
	水平に保ちながら立ち上がる			
	声をかけて歩調を合わせ、足側を先にして移送する			
	斜面では、頭部が高くなるように移送する			
	担架を下ろすときにも声をかけ、頭が低くならないように足から下ろす			
歩行介助	服装、履物の歩行時の安全性をアセスメントする			
	立位の姿勢を観察し歩行時の安全をアセスメントする			
	転倒の可能性がある側に、手の届く距離に立つ			
歩行介助	患者との距離を保ちながら斜め後方から付き添って歩く			
	・ 患者を支える場合は、手首または前腕、腰部			
	・ 患者がつかまる場合は、肩もしくは腕を持ってもらい、斜め前方を歩く			
歩行介助	・ 歩行器の場合は、後方につく			
	・ 杖歩行の場合は、杖と逆側から腰部を支える			
	患者がバランスを崩し転倒する場合は、腰部や腕を支える			
歩行介助	前後に足を開いて患者に一步近づき、患者が看護師の体をすべるように支え、転倒する速度を落としてゆっくり床に下ろすよう援助する	患者の生じるトルクを小さくし、支える負担を小さくする		

確認者サイン